



委員会活動報告 先進地などへ視察調査

総務常任委員会

均衡ある地域発展を目指して

7月11日 ————— 企画政策課

大山地域と菁莪地域の両地域は、人口減少と高齢化が顕著となっており、地域の活性化が求められています。そのため、29年度から慶應義塾大学SFC研究所と連携し、さまざまな取組が始まっています。各プロジェクトは、学生が地域に密着し、住民とコミュニケーションを図りながら進められています。

特に、リヤカー隊プロジェクトでは、慶應義塾大学の元気な若い学生が、自らリヤカーを引き、イベントに出向きネギなどを販売しています。

また、菁莪地域では、さまざまな世代の人が集まり料理を作ったり、一緒に食べたりすることで地域の人との交流を深める「菁莪元気食堂」を開催しています。

大山地域では、大山小学校を核とした、地

域活性化のイベントや動画制作に取り組んでいく予定です。

当プロジェクトの課題は、学生がプロジェクト期間を終えた後も、継続した取組ができるかという点であります。地域住民はもちろん、中心部や市外の人にもPRし、当プロジェクトに関わる人間を増やしてほしいと願います。

そのためには、議会や市も市民や学生が活動しやすいよう、環境整備やバックアップに努める必要があると考えます。



文教厚生常任委員会

介護保険制度を学ぶ

7月18日 ————— 高齢介護課

介護保険制度は、少子化や核家族化などの社会現象が進む中では、互助の精神にもとづく制度の充実が図られる必要があります。

篠津・大山圏域の地域包括支援センターは、団体の総会や昼食会、体操教室、子ども食堂での利用など、介護事業をはじめ、多方面の活動に開放されています。これらの利用を通じて、さまざまな地域や年代の交流にもつながっています。

一方で、介護保険サービスの負担割合が3割になるかたが出てくるということで、今後に対する不安を感じます。総合事業へのサービス提供の確保がしっかりされなければならないのはもちろんのことですが、複雑化するこの制度で、しっかりしたサービスを受ける

ためには、ケアマネジャーと連携を図り、自分にとってどのサービスが適切で、快適かというサービス内容を知ることが必要であると理解できました。

今後、安定した制度運用のためには、費用を増加させないことが肝要です。そのために、個々が介護予防に気を遣い、総合事業などを活用しながら、健康寿命を延ばす努力をしておくことが、自分にも社会的にも必要であると考えます。

